

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370800700
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム あやすぎの里
訪問調査日	平成 20 年 2 月 1 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4370800700
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム あやすぎの里
所在地	熊本県山鹿市鹿北町岩野5497-1 (電話) 0968-32-3181

評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本県熊本市上通町3-19-402		
訪問調査日	平成 20年 2月 1日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(H20年1月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 13日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500円	その他の経費(月額)	光熱費 500円/日	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		850円	

(4) 利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2		3名	
要介護3	4名	要介護4		2名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 86.7歳	最低	80歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは県北の山間部にあり自然豊かな環境の下、併設の特養やデイサービス事業所、社会福祉協議会が隣接している一角に存在している。鹿北地方特産のあや杉をふんだんに使った和風の建物であり、入居者は、ゆっくりのんびりとした安らかな暮らしぶりである。併設施設との連携が密に図られ、入居者の離設時や夜間救急時のバックアップ体制も完備している。また以前からの関係継続や新しい馴染み関係作りや月1回の詳細な報告は家族にとって安心な素因である。今後はより地域との交流を図るため、家族や近隣の参加できるホーム独自の行事の取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の理念の共有については、現在主任を中心に職員全員が理念に立ち返り、統一性のあるケアの実践に努めている。本人がより良く暮らし続けるための介護計画の見直しに関しては、入居者の担当職員が介護計画を作成できるように計画書の構成の検討や整合性のある記録方法についての意識を図り、工夫・改善が図られている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組む体制が図られており、評価結果に対してはホーム全体で改善努力がされており、今回の結果も職員全員で検討する予定である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	「運営推進会議規則」を作成し、議事録も整備されている。利用者の詳細な経過報告、ホーム行事、事故、自己評価、外部評価等の説明・報告がされている。委員からの要望や質問も多く有効な意見交換の機会となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月のホーム便りや入居者毎の受診報告等や心身の状況報告を行うことで、家族会の開催時や面会時に意見交換や要望を出しやすくしている。事故やヒヤリハットの報告も迅速に行い家族との信頼関係構築に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	運営推進会議などで得た情報により地域の行事や催しへ参加している。併設施設の行事参加や地域で開催されている「いきいきサロン」や「はつらつ百年塾」などに参加しており、地域の高齢者との交流ができ入居者の楽しみになっている。今後は近隣の方が気軽にホームへ訪問できるような取り組みが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来の5S(スマイル・サービス・スタディ・スペシャリティ・セーフティ)を基本理念とし地域の中でその人らしい生活の支援と安心した生活の支援を図っている。地域密着型サービスを意識した理念の見直しを計画している。		地域での役割を含めた理念の再考が期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付く場所に掲示し、日々理念に立ち返り、実践できるように努めている。家族や運営推進会議等で理念の説明をしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時等近隣の方への挨拶や会話を心がけている。運営推進会議等で得た地域の行事や催しに参加し、交流を図るように努めている。併設の施設主催の行事(夏祭り・どんどや等)の際に地域の方の参加もあり、そこでの交流も楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を実施している。評価結果後は改善に向けた検討や実践に取り組むようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームを理解してもらうように入居者の経過・受診報告、行事、職員研修、事故報告、自己評価、外部評価などの報告をしている。ホームの課題や、地域の情報についても協議や、意見交換を通して運営に役立っている。		

グループホーム あやすぎの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の場で、行政との意見交換を行っている。		地域密着型サービス事業所として普段からの情報交換等を通しての連携体制が望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月のホーム便りや受診状況や行事経過報告の他に担当者による入居者の状況・個々人の写真送付等、詳細な報告がされている。又、体調変化や事故・ヒヤリハット等があった場合はその都度電話連絡し、理解や協力を仰いでいる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催し、事業計画や行事等の報告をし、意見や要望を聞く場を設けている。遠方の家族の出席もあっている。苦情担当窓口を設け、記録し、早急に対応できるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職時は、入居者の混乱を避けるように新職員と替わる職員の勤務が重なるように調整し、馴染む期間を設けるように努めている。担当の家族には早急に報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加や法人内では研修企画を担う等している。研修参加後は伝達講習を開催している。		職員の勤務年数や経験年数に応じた研修の受講や内部研修の充実が期待されます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック研修会に参加し、情報交換や勉強会を行っている。又、施設交流の機会を設け、ネットワーク作りや質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅訪問や入院先を訪問したり、家族と本人とホーム見学に来てもらい、雰囲気を掴んでもらい馴染みの関係を作り入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今、その時を大切に、出来る限り傍らに寄り添い、笑顔のある関係作りに努めている。入居者同士の支え合いの関係づくりを支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや入居時のアセスメント家族からの情報を基に一人ひとりに合わせた支援に努めている。意思の疎通が困難な方や遠慮される方には、会話や表情、反応から汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者によるアセスメントや家族の情報を基に、介護計画作成担当者が計画を作成している。作成した計画は家族に説明している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しに関して、本人や家族との話し合いの場が取れず、職員間での見直しを行っている。必要な場合は随時ミーティングを行い検討している。		介護計画の定期的なモニタリングやカンファレンスなど、計画的なミーティングの実施や、モニタリングに繋がる記録の充実が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の併設事業所の利用や通院支援など、本人や家族の要望に柔軟に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、家族や本人の希望のかかりつけ医の医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までは対象者がいなかったが、法人の併設事業所の「看取り指針」を参考に看取りをする意向はあるが、家族やかかりつけ医との話し合いには至っていない。		代表者を含め職員や家族・本人・かかりつけ医との間での話し合いやグループホーム独自の「看取り指針」等の整備が望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーを損ねないように心がけているものの、対応が粗雑な場面が見られる時は、管理者が言葉かけや対応について注意している。個人情報の取り扱いに関してはプライバシー保護の徹底に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程はあるが、入居者や家族の希望やペース、体調に合わせた支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを出来るだけ入居者と共に行っている。食材の買い物も一緒にでかけ、栄養士が作成した献立を参考に、入居者の好みを取り入れたものになっている。職員も同じテーブルで会話をしながら食事を摂っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に日中の(13:30~15:30)入浴を行っている。拒否がある方には無理強いせず、シャワー浴にするなど清潔保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者の楽しみごと(テレビ、トランプ、歌、散歩等)や役割(掃除、洗濯物たたみ、調理の手伝い、片付け等)の場面で能力に応じた力を発揮できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等、希望があればその都度支援している。		入居者の身体機能低下により外出の機会が少なくなったようです。地域行事参加や家族と共に外出する機会の検討が期待されます。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を職員は理解しており、日中は鍵をかけていない。玄関にはセンサーチャイムが設置されており、入居者が出て行かれた場合は、見守りや声かけ、出来ない場合は関連法人事業所に応援を依頼することもある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは、2ヶ月毎の夜間・昼間を設定した非難訓練を実施している。消防署の協力のもと、法人内で開催される消防訓練、消火器の使用法、救急蘇生法等の訓練に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量をチェックをしている。食欲の無い時や病気の時など消化によいものを提供したり、献立や食事形態を変更し支援している。水分に関しては、食事や10時、3時で確保できるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風造りのホームのリビングの高い天井や柱にもあや杉が使用され、開放感と共に落ち着いた雰囲気がある。採光や空調にも配慮があり、畳コーナーの大きな仏壇の間には、こたつが置かれ入居者のくつろぎの場の一つになっている。室内の至るところに季節の花や装飾が置かれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の好みを尊重した居室作りの支援をしている。洋室と和室があり、以前使用されていた家具や生活用品、家族の写真等が持ち込まれている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あやすぎの里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県山鹿市鹿北町岩野5497-1
記入者名 (管理者)	田上 イク子
記入日	平成 19年 12月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		新しい理念の検討
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	目に届く所に掲示し、皆が日々理念に立ち返り、実践できるように努めている。 異動等により勤務日数の少ない職員への徹底などに関して、アプローチが不足している	理念の実践できるような目標の設定 定期的な勉強会や個人勉強会の実施
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ホームに掲示したり、運営推進会議等でのアプローチは行っているが、はっきりとした理念の伝達が出来ているかは定かでない。	ケアプランや、目標の中に理念を理解していただけるような表現なども多く取り込み伝えていく。 又、職員間で周知していく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の方々への挨拶など心がけている。運営推進会議などでも、多くの呼びかけなど行っているが、なかなか気軽に遊びに来られたりするような関係には至っていない。	地域の行事や催しの聞き取りや参加の実施 ボランティアの方々への呼びかけ
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	運営推進会議などで得た情報やお誘いにより、参加をしたり、元よりホーム近隣からの入居の方々への地元との交流は出来る限り機会を持っている。 しかし、ホームの町外から入居された方々とホーム近隣の方々との交流の機会はなかなか持っていない。	地域の行事や催しの聞き取りや参加の実施 ボランティアの方々への呼びかけ (可能であれば)地域老人会への参加

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	各ミーティング、また運営推進会議などを開催する中で、この項目に関する事案は出たことがなかった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を基にした全体的な改善には、まだなかなか至っていない。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中では、現状を報告し参加していただいている方々より、助言を頂いた事を実施したり、又、行事等での参加の機会を設けている。 (地域で開催されているいきいきサロンなどへの参加、行事などでの地域の方による舞踊のボランティア訪問等)		早めの行事等の企画と早くからの呼びかけ
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での報告で終わっており、それ以外での行き来は少ない		他のグループホームなどの市町村との連携についての聞き取りや相談
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	まだ地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会、話し合いは持っていない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。が、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持たず、勉強会が出来ていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居・退去に関し、細やかな説明をし、又、理解が得られていない場合など、十分に理解していただけるよう努めている</p>		<p>現在、契約等での説明は管理者及び主任が行っている部分が殆どであり、他の職員でも契約事項に関する説明が出来るようにマニュアルの作成が必要</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の声にきちんと耳を傾け、要望等には出来る限り対応が出来るよう努めている</p>		<p>本当の自分の意見を言える方は少ないが、しっかりと対応しケアに努めて行きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の家族への便り(あやすぎの里便り)での報告、又、体調等変化あった場合の電話連絡・確認などに努め、理解や協力をお願いしている</p>		<p>家族からの協力を得られるような報告の方法などの工夫</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内での苦情担当を設け、ホーム内又書類等に記載し、苦情等に対応できるように努めている</p>		<p>苦情を申し立てる窓口などが外部にもあるなどの説明をしっかりとしていく</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案は出来る限り聞くように努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、その都度調整に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職時は、新しい職員と辞めていく職員の勤務が重なるように調整し、慣れる期間を設けるよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関連の研修への参加、法人内での全体研修の企画など実施している。 個人レベルに合わせた便y公開・指導方法などの検討などは出来ていない		勤務年数や経験年数に応じた研修等の企画・実施 新しい事例等の伝達・事例検討等の研修の企画や実施
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHブロック研修会の開催、又、施設交流の機会を設けネットワーク作りやサービスの向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスマネジメントについての検討会などもなかなか実施されておらず、又、気軽に悩みの相談や意見の交換が出来る関係作り・方法についての検討会なども出来ていない		日常のストレス緩和に努めた話し合いや個人面談などで、まず何か悩みがあるのかなどの原因把握に努めていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心には個人差もあり、自主的な取り組みの少ない職員に対して、やる気を引き出す様な取り組み、アプローチが足りない		興味を引き出せる様な情報の提供、勉強会、又、話し合いの企画、実施
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み後、受け入れの可能性が出た場合に、直接の面談を行っている。 ゆっくりと時間を掛けて、色々な事柄を聞き取れているかは分からない。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み後、時折、状況の確認や受け入れ前などでの聞き取り、又、面談を行ってはいる。 色々な事柄を聞き出せているかは分からない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、担当ケアマネージャーと相談したり他の施設などを紹介するなど心がけている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みをされてから見学をしていただく等機会を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る限り傍らに寄り添い、笑顔のある関係づくりに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り家族への報告などは行ってはいるが、家族からの具体的な意見や希望を引き出せるような関係には至っていない。		家族の方も多く参加できる様な行事の企画、実施
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来る限り家族への報告などは行ってはいるが、家族からの具体的な意見や希望を引き出せるような関係には至っていない。		家族の方も多く参加できる様な行事の企画、実施
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内からの入居者への支援は出来る限り行っているが、町外からの入居者への馴染みの方々へのアプローチ、又、ホーム地域との新しい関係作りはできていない		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者本人の社交性に頼っている部分も多く、職員を通した入居者同士の関係作りは不足している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた入居者がおられ、家族にその後どうしておられるか電話したり又、家族から手紙を頂いたり、訪問して下さっており大切にしていきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向を把握することはなかなか難しいが、家族との協力のもと、出来る限り本人の思いに近づく努力をした		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方々の訪問などの際、よく聞き取り出来る限り把握しているが、事細かくとは知らないこともある。		きちんと把握していけるよう努めていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的なアセスメントやカンファレンスなども不足しており、直接的なケアへの反映が出来ていない。		定期的なアセスメント、カンファレンスの実施
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホームの課題としてなかなか迅速な介護計画の作成やその後の見直しが出来ていない状況にあったが、まずはアセスメントなどをしっかりとって行こうと動き出したところです。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族との話し合いの場がなかなか取れない状況で、職員間で出来る限り見直しを行っているが、一部でもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やスタッフ連絡帳を用い、情報の共有に努めている。 迅速な介護計画の見直しに至っていない。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所(デイサービス等)を利用したりする等、本人や家族の状況、その時々々の要望に応じていこうと努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議などにより情報や意見の交換に努めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の方より希望があり現在利用している (いきいきサロン、はつらつ百年塾 等)		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での関わりしか現状ではない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を大切に、家族が納得されたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、医療を受けることが出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医、家族にも相談し、必要あれば専門医の受診を行い、その関係が保てるよう努めている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居以前からの主治医のもとへ受診している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された後、職員が交代で見舞いに行くなどし、様子を伺い状態の把握に努め、医療関係者からも話を聞きながら、早めに退院が出来るように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、対象となる方がいなかったため、家族の方などと話し合いを持つ機会がなかった。		今後の対象となる方も出てくるので検討が必要。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	特に家族の思い、意向を確認し本人が望む環境の中で最後を迎えられるようチームワーク作りに努めている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時に入居対象者の関係者との効果的な情報交換が不十分な部分がある。 退去時には、しっかりとした情報伝達、提供に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>まれに、尊厳を損ねるような対応になっているときがある。個人情報の取り扱いに関しては、職員1人1人がプライバシー保護に関する文書を確認し、契約をし、プライバシー保護の徹底に努めている。</p>	<p>ケアに対する勉強会の企画・実施</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来る限り本人の希望や関わり方、自己決定できるように努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな日課に沿って援助を行ってはいるが、入居者や家族が希望される場合には、出来る限り希望に沿えるような援助に努めている。しかし、介助する必要性が高い入居者が優先となってしまっている一面もあり、スタッフ本位になってしまっている部分もある。</p>	<p>入居者1人1人がそれぞれに興味を抱けるような活動の工夫</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>出来る限り希望に沿って実施している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事も楽しんでいただけているが、準備をする際に、入居者と職員と一緒に準備する事が、それぞれの入居者の心身の状況の変化などもあり以前に比べ少なくなった。</p>	<p>饅頭や団子作りなど、簡単な作業などは出来る場合もあるので時間がかかっても出来る限り多くの方々が関わられるようにしたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人一人の体調等を考慮しつつ、出来る限り希望される時には喜んで楽しめるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握をして一人一人に必要な声掛け、誘導、付き添いなど支援している。排便コントロールには、努力が必要。		食事やお茶・水分摂取などの工夫 主治医らと相談するなどし下剤等使用の工夫
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前、どうしてもと希望された方が、夕方からの時間で入浴されたことはあったが、基本として日中(13:30～15:30)での入浴しか行っていない。		入浴を好まれない方も多いため、促し方・誘い方の工夫 もう少し多くの入浴の機会が持てるような検討
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の状況を見極めながら、適度なタイミングで居室・コタツ・ソファなど本人が希望されるところで休みことが出来るよう支援している。		夜間安眠が出来るような日中の活動の工夫
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を歌ったりなど、なかなか個人にあった力を活かした支援がもう少し努力が必要。		歌や踊りなど、いつでも自由にしたいことを出来るように 趣味作りや趣味活動の工夫。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者で金銭管理をされている方は少ないが、お金の価値が分からなくなった方も多く、又、自分でお金を持つのを嫌がる方もおられる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があればその都度実施している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年度は、入居者の方々の心身の状況の変化なども重なり、バスハイク等楽しみのある外出の機会を作れなかった。		早めの行事の企画 家族への早めの呼びかけ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への手紙、電話は希望があればいつでもできるような支援している。しかし、入居者の方が手紙を書きたいな～等と思われるような職員側からの支援は不足している。		年賀状等の季節毎に合わせた入居者へのアプローチ 日常で文字を書けるような機会作り(習字など)
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも訪問が出来るように心掛け、訪問された際には、お茶を出したり写真を撮ったりするなどし居心地よく過ごせるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃より身体拘束のないケアには努めていますが、前日も指摘されました身体拘束に関する勉強会等は出来ていません。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによる弊害を職員は理解しており、鍵をかけないケアに努めています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	外出の多い利用者には付き添ったりしながら所在や様子の把握に努め、完全に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	何かがあった際にはその都度職員間で話し合いを持ち、様々な意見やアイデアの中から危険を防ぐ為の努力をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃より十分に注意するよう努めながらも、事故が発生した後には必ずミーティングなどを開催し、再発の防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練は出来る限り2ヶ月毎に行い、すばやく初期対応が行えるように努めているが、救急蘇生法などについての勉強会はもっと工夫が必要。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月毎の夜間、昼間を想定した避難訓練などの実施		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに関しては、病院受診後の経過報告などを連絡するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見にすばやく対応できるよう、毎日のバイタルチェックや職員間での申し送りの徹底し、急変時や異変時には主治医への報告を行い、適切な対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の内服薬の情報の確認の徹底と職員間での申し送りを行っている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェックなどを行い状態把握に努めている。が、食事などに対する工夫に努力が必要である。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけや介助を行い、清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲の無い時や病気の時など、消化によいものを提供したり、献立もその都度工夫し支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、疥癬が発生した時には実行できたが、今回感染性胃腸炎が発生した際には対応が後手に回ってしまった。今後のより一層の職員全員での取り組みが必要。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	以前から食材の管理や調理器具の衛生管理に努めていたが、今回感染性胃腸炎が発生したこともあり、消毒などの方法などより一層の努力工夫が必要である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	掃除等をし、綺麗な雰囲気作りに努めている		可愛いプランターなどを設置して柔らかな雰囲気作り
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節感を感じれる空間作りに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間以外で、座って話をしたり出来るようにしている。(椅子を置いたり、掲示物を貼ったり)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みを尊重した居室作りに努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	状況を見ながら行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な場所に手すりを設置してあったり、また危険物に配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室内での混乱を防ぐ為にも、トイレの場所を表記したり、水道などの操作案内などを表示したりし、自分で使われても混乱の無いように努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や広いテラスを使って花などのプランターの栽培、よく葉を落としてくれるような木々を植えてあり、様々な活動の機会作りに努めている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

和風造りの建物で、裏には畑があり利用者らと共に作った野菜なども栽培しています。ホームの廻りも自然に恵まれており、四季折々の景色が楽しめたり山々に生る栗や柿を収穫することも出来、利用者の方々はいつも楽しみにしておられます。職員も皆優しく、入居屋の要望や想いを出来る限り叶えたいという思いを常に持ち支援しています。また母体である特別養護老人ホームやデイサービスからの協力も得られ、グループホームに入居されている利用者の方も、併設する各事業所を利用されている入居者との交流や各事業所の職員らと接する機会も多く持て、昔なじみの方らとの関係の継続や新しい馴染みのある関係作りも行えます。また、併設施設間とも情報の共有に努めており、急な対応が必要になった際に、すばやい対応が実行できます。2ヶ月毎の運営推進会議も様々な関係者が参加していただいただけ、ホームでの行事ごとの際にもボランティアで参加していただけるような地域での協力者も増え、今後も地域との交流に力を入れているところです。